

業務改善に関する教頭の役割

—多忙化解消に向けた取組—

I はじめに

学校現場を取り巻く環境が複雑化・多様化し、学校に求められる役割が拡大する中、教員の長時間勤務の改善が課題となっている。学習指導要領の改訂の動向等を踏まえた授業改善に取り組む時間や、教員が子供と向き合う時間を確保し、教員一人一人が持っている力を高め、発揮できる環境を整えていく必要がある。国では、平成28年6月「学校現場における業務の適正化に向けて」、平成30年2月には、「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について」、3月には「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」等、教員を取り巻く環境改善に向けた取組が進められている。山梨市学運研では、「業務改善に関する教頭の役割」～多忙化解消に向けた取組～を29年度からの研究テーマとし、教員の業務改善・多忙化解消に向けた研究を進めている。

II 研究のねらい

学校教育の充実を図っていくためには、教職員が一人一人の児童生徒と向き合う時間を確保し、意欲的に力を発揮できる職場環境を整えていく必要がある。そのためには、教職員の実態を把握し、各校の実情に合わせた改善策を講じる必要がある。そこで、次の①から③を本研究のねらいとして設定した。〔①多忙化解消に向けた取組に関する資料等の情報収集、各校の情報共有②市内学校の実態把握③業務改善に向けた教職員の学校運営参画意識の高揚などに関する教頭の役割検討〕

III 研究計画

- ・ 1年次（29年度 省略56号参照）
- ・ 2年次（30年度）
 - ① アンケート調査の実施・結果の分析
 - ② 調査結果を基にした業務改善・教職員の意識高揚のための取組検討（各校）
 - ③ 学校間の取組に関する情報共有
- ・ 3年次（31年度）
 - ① 研究のまとめ（取組の成果、今後の課題に関するまとめ）
 - ② 教頭としての役割の整理

IV 研究内容

- 1 研究について（省略）
- 2 研究の内容

現在、①と③の取組が進められている。①「アンケート調査の実施・結果の分析」については、新たに調査をせず、市教育委員会で行った「山梨市勤務実態調査」のデータを活用し、集計・分析を行う。③「学校間の取組に関する情報共有（取組事例の収集）」

については、多忙化改善についての情報交換（「平成30年度版改善計画」）を行う。①の調査の結果、自分たちのおかれている状況を把握した上で、多忙化改善についての情報交換を行うことがより効果的であると考え。

3 研究の経過

(1) 「山梨市勤務実態調査」について

- ・期間 平成29年12月4日（月）～12月10日（日）
- ・対象 終日勤務の教職員を対象
- ・内容 ・出勤した時刻と退勤した時刻の記録・自宅での作業時間を10分単位で記録
- ・対象校 市内小学校8校 中学校3校 小学校回答数146 中学校回答数74

◇集計結果（「集計結果」の一部を掲載「考察」等も省略する）

①勤務日における1日あたりの在校時間

・小学校 平均 10時間27分 ・中学校 平均 10時間59分

②週休日の1日あたりの在校時間

・小学校 平均 1時間22分 ・中学校 平均 6時間47分

③平日の総在校時間【校長】

・小学校 平均 47時間41分 ・中学校 平均 50時間28分

④平日の総在校時間【教頭】

・小学校 平均 57時間28分 ・中学校 平均 58時間16分

⑤平日の総在校時間【管理職を除いた職員】

・小学校 平均 52時間11分 ・中学校 平均 54時間59分

(2) 「学校間の取組に関する情報共有」について→「平成30年度改善計画」より

山梨県教育委員会よりの「教員の多忙化改善に向けた取組推進について」の2「改善計画による取組の推進と検証」で、各校が作成した「平成30年度改善計画」の①～⑥（〈会議の効率化〉〈学校行事の負担軽減〉〈校内組織の見直し〉〈業務の効率化〉〈部活動の負担軽減〉〈地域人材の活用〉）についての情報交換を行った。（掲載は誌面の都合で省略する。）

V 成果と課題

「勤務実態調査」については、現段階では集計までではあるが、私たちの多忙極まる職場の実態を改めて確認することができたと思う。今後、県のデータとも比較しながら更なる分析を行い、今後の研究・実践に活かしたい。

多忙化解消についての「30年度改善計画」における、各校の取組計画について情報交換をしたが、「業務」に関して多方面に渡り課題が多い。一例をあげると「地域人材の活用」をすることによって、申請報告の文書作成や講師との連絡調整などあらたな「業務」を増やしてしまう面もある。

多忙化について「検討する」時間自体、なかなか生み出せない中、各校の課題や取組の状況を聞くことができ、大変参考になった。今後、各校の取組を参考にしながら、自校の後期の改善計画に取り組んでいく。

（山梨南中学校 倉田憲一）